

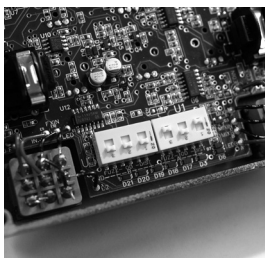
[14人のビルダーが斬るオーヴァードライブの現在] #006

# Jay Fee

レコーディングの手法をペダル・デザインに応用



## Empress Effects Multidrive



◀内部にはDIPスイッチを装備。これを切り替えることで各モードをどう組み合わせで鳴らすかを定めることができる。非常にユニークだ。

[Specifications] ●コントロール:Fuzz (Gain, Volume)、Overdrive (Gain, Volume)、Distortion (Gain, Volume)、Hi, Low, Mid, Output ●スイッチ: ON/OFF、Select、Filter × 3、Distortion Type、Mid Freq. 内部スイッチ ●端子: Input, Output ●サイズ: 117mm (W) × 92mm (D) × 51mm (H) ●電源: 9VDC ●価格: open price (問)00-0000-0000 / アンブレラカンパニー

Q: お名前とどのような業務に携わっているかを教えてください。

A: ジェイ・フィーです。ペダルの設計デザインを担当しています。

Q: 歴史上、名機と呼ばれるオーヴァードライブがいくつか存在しますが、最も影響を受けたモデルはどれでしょうか？

A: 実際には、私たちはペダルよりもクラシック・アンプに大きな影響をうけています。私自身、数々のレコーディングを通じて、多くの場合にアンプの歪みがペダルの歪みよりも使用される機会の多いことに気がついていたからです。

Q: オーヴァードライブをデザインする時に最も重要視するポイントはどこでしょうか？

A: “Multidrive”を設計するにあたって一番重要だったことは、「いかに低出力の真空管アンプをブッシュした時のサウンドを得るか」ということでした。また多くのペダルはギターの本音が持つキャラクターを全く違うものに変化させてしまっています。“Multidrive”はオーヴァードライブを弱めにすれば(手でボリュームを絞ったり、設定をクリーンに近にした場合に)、オリジナルのクリーン・トーンが得られるよう設計されています。

Q: 主にどのようなプレイで使われることを想定してオーヴァードライブをデザインしていますか？

A: ソロもバックも両方です。ソロにはサステインが鍵になると思いますが、“Multidrive”のファズ・セクションは素晴らしいサステインが特徴です。しかも3タイプの歪みをブレンドできるので、ファズだけでなく多少ダイナミックさに欠けるといった場

### TEST REPORT

●歪みの全てをこの1台で作ってしまおう、という「突破的」なコンセプトを持つペダル。3バンドのアクティブEQを備えたプリ・アンプの発想も持たせている。歪みは2つのプリセットが切り替えられ、“OD/DIST/FUZZ”の3つをいずれか単体、または2、3種ミックスして使用可能。プリセットは内部のDIPスイッチで設定可能だ。基本的にはいずれか1つがONになるモード(MODE 1)と、3つ全てがONになるモード(MODE 2)を組んでおけば、使用しない歪みの音量を下げるだけで、歪みのミッ

クスが簡単に行なえるだろう。音は全体的にナチュラルでクセがないが、メインのアクティブEQを使って派手に音作りした方が本機の個性を楽しめるはず。また、各歪みのモードにはフィルター(EQ)が装備されているので、ミックス・モードで使用する際は、低域にオーヴァードライブ、高域にファズなど、担当帯域を決めて使用することも可能だ。実音を大事にするというよりは、盛りだくさんの機能を生かしながら他のペダルとのコンビネーションで新しい効果を狙う方がこのペダルが生きてくるのでは？と感じた。(編集部)

合、オーヴァードライブを重ねることができます。アグレッシブなアッパー・ミドル・レンジはリズムからソロに移る時に印象的に響くはずですよ。

Q: オーヴァードライブ・ペダルの回路には、オペアンプやダイオードなど歪みの質に大きく関与するパーツがいくつかあります。あなたがもっとも重要視するパーツはどれでしょうか？

A: 時には特定のコンポーネントが全てのサウンドを壊してしまったりもしますが、たいていの場合、それらは味付けのスパイスのように働きます。“Multidrive”に関しては、90%のパーツはスタンダードなものです。そして残る10%は色々と入れ替えを行ない、サウンドを比較しながら決定していきま

た。たいていの場合、AとBのパーツを比較してもギターの種類などによって、こちらはAが良い、この場合にはBが良い、などとなるものです。私たちは可能な限り多くのギターの種類で良い結果が得られるよう慎重に選択しています。

Q: オーヴァードライブの回路は研究され尽くした観がありますが、まだ改良する余地は残されていると考えますか？

A: 私はいつでも新しいサウンドを見つけることが可能だと思います。私がエンジニアをやっていた頃、いくつかの異なる種類のギター・アンプで録音し、最終的にそれらをレイヤーして作り上げていく手法を多く採用していました。“Multidrive”はこの手法をペダルで再現することがコンセプトだったので。私たちが“Multidrive”を発売する時点で何100種類もの歪みペダルが市場にあったので、その中でオリジナリティを出していくのは難しいことでしたが、この異なる歪みを重ねていく手法はまだ誰も提案していないことでした。また信号のデジタル解析によってリアルタイムでアナログ回路をコントロールする手法は、今後注目すべきだと思います。



▲エンプレス製品に携わっているスタッフ。後列左端がジェイ・フィー氏。